



羽田ミヤコタナゴ通信



通信

一向に衰えを見せない新型コロナウイルスの影響で、令和2年は様々な事が大きく変化した年でもありました。『人との接触を7割減らす』などの行動指針が示され、在宅勤務、Web会議、オンライン帰省・飲み会など、これまでの生活からは想像もつかない事が実際に起こった年でもありました。当初は都市部の話かと他人事のように見ておりましたが、栃木県においても令和3年に入り、急速にその必要性を感じさせられるようになってきた事も事実です。

在宅勤務やWeb会議等で、人との接触が間接的になった分、何か大切なものを失ったような感じも受けております。機械を通して本音が伝わるかと思えば伝わらず、意図した事が間違っ伝わる事もありました。感染拡大を防ぐには必要不可欠である事は十分に理解していても、何か歯がゆさを感じてしまう生活スタイルで、慣れるまでにはもう少し時間がかかりそうです。

羽田の地元活動についても昨年より中止が相次ぎ、今まで当たり前のように活動していたことが出来なくなり、農村文化の伝承も止まった状態です。ミヤコタナゴの活動についても同じであり、本来活動すべき時期に活動ができず、歯がゆい思いをしております。今年は『羽田ミヤコタナゴ再導入に向けた協議会』が設立され11年目を迎えます。活動が停滞することは前に進めなくなることでありますので、あらゆる可能性を考えながら活動を継続して行くことを考えていきます。令和3年度は新たな取組みの話も聞こえてきておりますので、今までよりも多くの成果が得られるような、そんな年になりそうです。

地域の皆様のご理解ご協力が得られて、初めて進むことも多くあると思いますので、地域の皆様には引き続きご協力等よろしくお願い致します。



トピック

- 1 今までを振りかえって
- 2 ようこそ羽田沼農産物直売所へ!!
- 3 プロジェクトH ～小学生の挑戦～

発行元：羽田ミヤコタナゴ再導入に向けた協議会
発行事務局：農村環境クリエト



どうなっているのだ～!!
～ 羽田沼のミステリーサークル ～

1 今までを振り返って

再導入に向けた活動が開始され11年目に入ることは通信欄でも紹介しましたが、平成23年から令和2年までの10年間にわたって行われた主な取組軌跡について、思い出と共に写真を交えて振り返ってみます。

平成23年に羽田小学校のランチルームで協議会（写真1）が年3回程度開催され始め、ミヤコタナゴ野生復帰の取り組みが始まりました。協議会が立ち上がった当時は、ミヤコタナゴの天敵となるオオクチバスやブルーギルが羽田沼や生息水路に生息しており、まずはそれらの外敵を取り除くことを開始しました（写真2、3）。また生息水路についても、畦畔崩れや落葉落枝の堆積により、とてもきれいな環境であるとは言えませんでした。『せっかくミヤコタナゴの野生復帰を目指すのであれば、きれいな環境に復帰させたい』との思いから水路の環境整備（写真4、5）も合わせて定期的に行うこととなりました。そんな中、羽田沼にバスが投げ込まれ、みるみる生育範囲を広げていき、このままでは景観や水質に影響があるとのことから、宇都宮大学の協力を得て全国でも初となる除草剤を用いた駆除（写真6）を行いました。その頃オオクチバスやブルーギルの生息も確認されなくなり外来魚駆除も合わせて成功しました。全国的に見ても初めての快挙であったと思います。その後ミヤコタナゴの試験放流（写真7、8）が開始され、ミヤコタナゴの生息状況や繁殖等についての調査（写真9、10、11）が行われ、次第に問題と課題が浮かび上がってきました。特に水温の問題が大きく、水温の日変動差を小さくするにはどのようにしたらよいか関係者間で協議し、かつての取水方法（写真12）へ戻すため取水塔の改修（写真13）を実施しました。ミヤコタナゴは生息できるが産卵母貝となるマツカサガイの減少に歯止めがかからないことから、マツカサガイの稚貝導入試験（写真14）も実施しましたが、思うように成果が得られず、時間ばかりが経過して行きました。そんな中、羽田小学校と馬頭高校とで、『なんとか野生復帰の筋道が見えないだろうか、私たちに出来ることは何かないか、水質であれば調べ続けられるのではないかな』という思いから、今まで環境省で調べていた水質を羽田小学校と馬頭高校で継続して調べることになりました（写真15、16、17）。さらに馬頭高校には水産科（写真18）があることの利点を生かし、ビオトープ（生物生息空間）の視点から、ミヤコタナゴの野生復帰のための問題と課題について取り組む計画（写真19）が出てきています。

10年間を通して振り返りましたが、一番大切なことは『関係者間で問題を共有し、それに向けて解決策を考え、決めたことについては、各関係者が責任を持って確実に実行する』ということを実行できるか否かであると思います。そのようなこともあり、現在では羽田小学校で行われておりました協議会の開催については、情報の共有ということで『羽田ミヤコタナゴ通信』の発行へ変更させていただき、詳細な検討実施事項については定期的に関係者間の打合せ（写真20）を実施し、効率よく効果的に物事を進めるように努力しています。



写真1



写真2



写真3



写真4



写真5



写真6



写真7



写真8



写真9



写真10



写真11



写真12



写真13



写真14



写真15



写真16



写真17



写真18



写真19



写真20

2 ようこそ羽田沼農産物直売所へ!!

農村と関係が深い生き物（この地区ではミヤコタナゴやマツカサガイになります）を保全するということは、人々の生活があって初めて成り立つものです。そのため、羽田地区の営農について少しでも知っていただければと思います。

今回から定期的に羽田の農産物の紹介をさせていただこうと思います。まずは羽田地区の農産物をより多くの方々に知っていただくということで、土曜日と日曜日の午前9時から営業を行っている羽田農産物直売所の紹介をさせていただきます。

～農産物をお買い上げ頂きましてありがとうございます。～

当直売所は『新鮮・安心・安価』を皆様に提供しようと平成12年2月19日にオープン致しました。

【まほろば羽田の父ちゃん、母ちゃん、じーちゃん、ばーちゃんが真心こめて栽培した農産物です】このキャッチフレーズは開店まもなくの頃、お客様にお渡ししたチラシの一部に記載していました。

開店したこの時期の羽田沼は毎年、ハクチョウやカモなどの水鳥が水面を埋め尽くすように集まっていた。一日中ハクチョウがいるので、「その様子を見たい、餌やりがしたい」という多くの人々やカメラマンであふれておりました。

開店まもなくの頃は品揃えや出荷量も少なく、なかなかお客様の要求に応えることが出来ませんでした。「お客様の要望にもこたえられるように」と、直売所向けの生産がされるようになると会員数も増え、多くの農産物が作られるようになりました。また、売り場面積を広げ対応もしました。そしていつの間にか直売所がお客様と生産者、お客様同士の交流の場ともなっていました。

感謝祭の開催も交流の場を大きく広げることとなりました。1周年となる平成13年2月に第1回の感謝祭を開催し、その後毎年行い、その都度盛大になっていきました。

しかしいつまでも順風満帆というわけではありませんでした。水質に悪影響を与えることから羽田沼での餌やりが禁止になり、ハクチョウや見物客が激減し、また東日本大震災での原発事故により目玉商品の山菜類が販売できなくなりました。そして今、新型コロナウイルス感染症が猛威を振るい客足が落ちています。

開店から20余年。いろいろとありましたが『新鮮・安心・安価』そして『自らが作り自らが収穫したものだけを販売する』という原則のもと、責任



をもって栽培し、自信をもって販売を続けています。四季を通して様々な野菜や野菜加工品、草花や切り花はもちろんのこと、マスクや財布など手作りの小物もあります。羽田の美味しいお米はいつでもあります。

これからも会員一同力を合わせ、お客様に必要とされる直売所であり続けるように努力していきます。ぜひ当直売所へお越しください。お待ちしております。
(羽田沼農産物直売所 代表 金指孝一)

3 プロジェクトH ～小学生の挑戦～

羽田小学校と馬頭高校とのプロジェクトが始まり1年が経過しました。普段の授業では見つけられない発見があったかと思えます。今年度担当した児童の皆さんにどのような体験があり、どのような学びがあったか感想を書いていただきました。

感想1 ～パックテスト～

水質調査では、水路入り口や水路中間地点、水槽の水温を測ったり、透視度を測ったり、水質パックテストをやります。私は初めてパックテストをやりました。パックテストにはpHやCOD、アンモニウム態窒素、亜硝酸態窒素、硝酸、リン酸態リンなどをそれぞれ調べるキットがあります。水を吸うためにキットを押すけれど、硬くてあまりおせません。でも、やっていくうちに慣れてきて、キットで上手に水を吸うことができるようになりました。

テストでは、調べる項目によって時間を計って、標準色カードを見て、どの色がすぐに見分けなければなりません。どの色か見分けるのが難しいので、すぐに決められないときがあります。ふだんから標準色カードを見るようにして、すぐに決められるようにしたいです。
(高木 陽菜)



感想2 ～水路探検・パックテスト～

何度か水路探検に行ったとき、水路に思ったよりたくさんの生き物がいました。馬頭高校の先生に、生き物にとってすみやすい水について説明していただきました。人間にとっては安全な水でも、水路にすむ生き物たちにとっては害があると知り、人間と水路にすむ生き物たちにとってのきれいな水は、ちがうと思いました。

透視度やパックテストという水の中の状態を調べるテストも行いました。調べることがたくさんありましたが、一つずつ丁寧に取り組みました。学校の水槽の水と水路の水の結果がかなり違っていておどろきました。

私は水質調査で今まで知らなかったことを新しく知ることができました。また、水路に入ってあみを使って生き物をさがしたり、ふれあったり、ふだんできない体験もさせていただいてとても楽しかったです。また、生き物がすみやすい水路になるように、環境のことにも気を配りながら生活したいと思いました。(寺田 さくら)



感想3 ～二枚貝調査～

水質調査を初めてやってみて心に残ったことがあります。それは11月にやった二枚貝調査です。二枚貝調査では、たくさんの人たちが来て、マツカサガイやドブガイなどの生き物をさがしていました。マツカサガイが前にとったものかを判別するために、貝のところにマイクログラインダーで印がつけてありました。だから、前に一度とったことがある貝なのか新しく生まれた貝なのかを区別できるということが分かりました。

ほかに分かったことは、ミヤコタナゴはドブガイにも卵を産むということです。私は、矢板のミヤコタナゴがドブガイに卵を産むということは知りませんでした。羽田小学校のミヤコタナゴはマツカサガイに卵を産んでいます。ドブガイにも卵を産むなんて、とてもすごいと思いました。
(能登 夢乃)



来年度の事業計画につきましては、新型コロナウイルスの影響等を見極めながら進めていくこととなります。皆様のご協力よろしくお願ひします。

問い合わせ先：大田原市教育委員会事務局文化振興課文化財係
TEL 0287-23-3135
FAX 0287-23-3138
E-mail bunka@city.ohawara.tochigi.jp